

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
<p>(1) 世界史の扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人類は、自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に積極的に働きかけ、適応すべき諸手段を開発してきたことを理解し、世界史学習における地理的視点の重要性に気付く。</li> <li>・ 日本と世界の諸地域の間、相互の接触・交流の結果もたらされた多くの歴史的事例があることを理解し、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付く。</li> <li>・ 世界の人々の身近に存在し、日常的に利用したり、習慣化したりしている事柄について、その起源や変遷などを理解し、日常生活から世界の歴史がとらえられることに気付く。</li> </ul>	
<p>(2) 諸地域の形成</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>[西アジアの地理的特質とオリエント文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエント文明においては、大河を利用した治水・灌漑を行うために、宗教的権威による神権政治が出現したことを理解する。</li> <li>・ メソポタミアにおける諸民族の興亡、エジプトの統一国家の形成、東地中海の諸民族の活動を理解するとともに、オリエント文明の特徴を把握する。</li> </ul> <p>[イラン人の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエント世界がアケメネス朝によって統一されるまでの歴史的経緯を理解する。</li> <li>・ 地中海一帯の土壌と農業の特徴から、地中海の交</li> </ul>	

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>易が発達した理由を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エーゲ文明の特徴、ポリスの形成過程、ポリス社会の特徴を理解する。</li> <li>・アテネにおける民主政の成立過程を、ペルシア戦争を含めて理解するとともに、ポリス社会の衰退の過程を理解する。</li> <li>・ポリスの変容からヘレニズム世界の形成までの歴史的過程を理解する。</li> <li>・ローマ帝国の興亡の歴史的過程を政治制度の推移や征服活動などから理解する。</li> <li>・キリスト教の迫害から国教化に至る過程を皇帝崇拜との関係から理解する。</li> </ul> <p>[南アジアの地理的特質]</p> <p>多様な自然条件にある南アジアが、モンスーンの影響を受ける点で共通性をもっており、降水量の多少に応じた農耕が展開されて多様な農産物が作られてきたことを知る。</p> <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モエンジョ=ダーロとハラッパー遺跡から、インダス文明が明確な都市計画に基づいて建設された都市文明であったことを知る。</li> </ul> <p>[アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南アジアに侵入したアーリヤ人が定住して諸国家を形成し、やがてマウリヤ朝やグプタ朝などの帝国を樹立したことと、デカン高原に非アーリヤ人王朝が成立し、南アジア北部の文明を受け入れつつ、海上交易に活躍したことを知る。</li> <li>・バラモン教がヴァルナ制度と結び付き、後のカースト制度の枠組みとなったことを知るとともに、ヒンドゥー教とカースト制度が南アジア世界に統一性を与えていたことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教の成立と諸地域への伝播を知るとともに、南アジアの仏教がヒンドゥー教に吸収されて衰退していったことを知る。</li> </ul> <p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジアが半島部と島嶼部からなり、モンスーンの影響を受ける中で海路などを利用した交易活動を盛んに展開してきたことを知る。</li> <li>・ 東南アジアの諸民族が、南アジア文明や中華文明の影響を受けながら、海上交易の拡大に伴って港市を形成し国家を誕生させたことを知る。</li> </ul> <p>[東アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東アジアが主にモンスーン気候地帯に属し、農耕を中心とした生業が営まれてきたことを知る。</li> </ul> <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黄河・長江流域の新石器文化や殷・周の成立、漢字の起源を知る。</li> <li>・ 春秋戦国時代の経済や文化の発展について知る。</li> <li>・ 秦・漢帝国の成立と統治体制の特質、周辺諸国との冊封体制について調べ、把握する。</li> </ul> <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内陸アジアの大半が乾燥地帯であり、草原とオアシスで活動する遊牧民とオアシス民とが共存・共生の関係にあったことを理解する。</li> <li>・ 匈奴について、文化や軍事力を知るとともに、オアシス都市の覇権をめぐり漢と長期の抗争を続けたことを知る。</li> <li>・ 遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住を知るとともに、遊牧民の定住化や均田制などの新しい傾向が見られたことを知る。</li> </ul> <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊牧民と漢人の融合、内陸アジアでの遊牧国家突厥の成立などを背景に、中国で隋・唐帝国が成立したことを説明できる。</li> </ul>

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
<p>エ 時間軸からみる諸地域世界</p> <p>主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(3) ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大</p> <p>アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唐が支配体制を整え、周辺諸国との間に安定した関係を結び、東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを知る。</li> <li>・日本や新羅、渤海が唐の政治制度や文化を取り入れることで国家体制の整備を進めたことを知る。</li> <li>・設定した主題について、年表や模式図にまとめ、歴史的事象の前後関係を把握して、因果関係を明らかにすることができる。</li> </ul> <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7世紀の西アジアの情勢とムハンマドの活動から、イスラーム成立の背景と特質を知る。</li> <li>・カリフの指導下におけるウマイヤ朝、アッバース朝それぞれの支配地域を確認するとともに、アッバース朝でイスラーム法に基づく国家体制が確立し、ムスリム商人を中心とした交易活動が活発化したことを理解する。</li> <li>・9世紀以降、アッバース朝の政治的衰退に伴ってイスラーム帝国の統一性が失われる中、アラビア語によるコーランの読誦と、経済・文化による交流がムスリムの連携を維持させたことを知る。</li> </ul> <p>[トルコ系民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコ系民族が内陸アジアから西アジア・南アジア北部に進出したことを知る。</li> </ul> <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ムスリム商人とスーフィー教団により、東西アフリカや、南アジア・東南アジアのイスラーム化が進んだことを知る。</li> </ul> <p>[イスラーム文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム文明は、古代の西アジア文明の上に、ユーラシア各地の伝統的・民族的要素を加えた融合文化であり、自然科学や哲学の分野で、ヨーロ</li> </ul>	

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開                      ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界                      内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<p>ツパや中国に影響を与えたことを知る。</p> <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザンツ帝国が次第にギリシア化した過程と、コンスタンティノープルがヨーロッパとアジア、地中海と黒海の中継点として経済的に繁栄したことを地図を用いて表現することができる。</li> <li>・東ヨーロッパ各地にスラヴ人国家が建設され、ビザンツ文化・ギリシア正教・ローマ=カトリックを受け入れるなど、多様な性格をもつ世界となったことを把握する。</li> </ul> <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動、]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西ヨーロッパ世界では、ビザンツ帝国に対して独自性が確立し、イスラーム勢力やノルマン人と対抗する中で、封建社会が成立したことを知る。</li> <li>・西ヨーロッパでは、農業技術の革新と生産性の向上、商業や都市の発達を背景に11世紀から13世紀にかけて封建社会が変容し、14世紀以降には国王による中央集権化が進んだことを知る。</li> </ul> <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教会や修道院の果たした役割、日常生活とキリスト教とのかかわりを知るとともに、イスラーム文明がヨーロッパ文明に大きな影響を与えたことを知る。</li> </ul> <p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコ系民族が、内陸アジア西部のパミール高原を挟む広大な地域に移動・定住し、やがてイスラームを受け入れたことを知る。</li> <li>・内陸アジア東部から中国東北部、華北一帯では、契丹や女真が宋と政治的・軍事的に対立しながらも交易を行ったことを知る。</li> <li>・中国では宋代に産業や文化が発達し、商業都市が栄えており、日宋貿易が活発になったことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>エ 空間軸からみる諸地域世界</p> <p>同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(4) アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>諸地域世界の結合と変容</p>	<p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルが、13世紀に朝鮮半島からロシア平原に及ぶ広大な地域を支配した過程やその世界帝国が元を中心とした諸ハン国との連合体に再編されたことを知る。</li> <li>・元がユーラシアを海域と内陸で循環する交通・交易体系をつくりあげたことを知る。</li> <li>・14世紀半ば、モンゴル帝国の解体により、明やティムール、ムガル、ロシアなどが誕生し、直接モンゴルの支配が及ばなかった日本や東南アジアなどの地域でも国家・社会の変容と再編が進んだことを知る。</li> </ul> <p>・同時代性に着目して設定した主題について、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的事象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。</p>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>ア アジア諸地域の繁栄と日本</p> <p>西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界</p> <p>ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティムール朝の興亡とトルコ=イスラーム文化の繁栄を理解する。</li> <li>・オスマン帝国の興亡と国家体制について理解する。</li> <li>・ムガル帝国のインド統治について、その宗教政策の変化や、宗教政策と地方勢力の台頭の関係を理解する。</li> <li>・ポルトガルやスペインの東南アジア進出とムスリム商人の活動について理解する。</li> </ul> <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明の成立と明初の統治体制について理解する。</li> <li>・明の海禁政策と朝貢体制の確立、北虜南倭への対応が朝貢体制に与えた影響について理解する。</li> <li>・清の中国統治の特徴や支配領域の拡大と周辺地域の統治について理解する。</li> <li>・日本について、勘合貿易、朝鮮出兵、「鎖国」体制下の海外交易について理解する。</li> </ul> <p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思想・芸術・科学などの分野におけるルネサンスの展開を理解する。</li> <li>・ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革と対抗宗教改革の具体的な展開を理解する。</li> <li>・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国の興亡と三十年戦争の経過と結果を理解する。</li> </ul> <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ人による探検の事績を地図上で確認できるとともに、大航海時代の影響として商業革命と価格革命について理解する。</li> <li>・アジア市場におけるポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国による覇権争いについて理解する。</li> <li>・アメリカにおける英仏の植民地争奪を理解する。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成</p> <p>産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカにおける砂糖やタバコのプランテーションにアフリカ系奴隷が労働力として使役された背景を理解する。</li> </ul> <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験論、合理論、ドイツ観念論、自然法思想、啓蒙思想の各思想家の思想について理解する。</li> </ul> <p>[産業革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスで最初に産業革命が起こった理由を理解する。</li> <li>・産業革命の結果発生した労働問題や社会問題を理解する。</li> </ul> <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・13 植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。</li> <li>・フランス革命の勃発から進展の過程を、革命を主導した社会層の変化に着目しながら理解する。</li> <li>・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。</li> <li>・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解できる。</li> </ul> <p>[19世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィーン体制の成立から動揺・崩壊の過程を理解する。</li> <li>・1848年にヨーロッパ各地で起こった一連の革命・民族運動の経緯を理解する。</li> <li>・東方問題とロシアの南下政策、ロシアの改革について理解する。</li> <li>・イタリアとドイツの統一運動の過程を理解するとともに、ビスマルク外交のねらいと内容を理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の領土拡大の過程や南北戦争後の経済的発展について理解する。</li> </ul>



学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、</p>	<p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的分業体制におけるアジア諸国の位置付けについて理解する。</li> </ul> <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアにおいてワッハーブ派やウラービー運動、バーブ運動に見られるイスラーム改革運動やアラブ民族運動が起きたことについて理解する。</li> <li>・インドの植民地化を進める中で、イギリス東アジア会社の性格が変化していったことを理解する。</li> <li>・東南アジア諸地域でヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響を理解する。</li> <li>・アヘン戦争に至るイギリスの対中国政策の推移、南京条約・北京条約の内容について理解する。</li> <li>・太平天国の運動の民族主義的性格について理解するとともに、その後に展開された洋務運動の限界について理解する。</li> <li>・明治維新により近代化を進めた日本の対外政策について理解する。</li> </ul> <p>・設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、糸、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。</p>

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
<p>(5) 地球世界の到来</p> <p>世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容</p> <p>科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現</p> <p>総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中・集積が進んだことを知る。</li> </ul> <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。</li> <li>・欧米諸国の支配を受けたアジア・アフリカで民族意識が覚醒し、マフディー派の抵抗、義和団、インド国民会議派の運動など、ナショナリズムの運動が起こったことを知る。</li> <li>・日本では日清戦争、日露戦争を経て近代産業が成立し、不平等条約が改正されたことを知る。</li> </ul> <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀後半、ヨーロッパからアメリカやオセアニアへの大規模な移住が見られたことや、中国や南アジアなどから移民労働者が大量に世界の労働力市場に供給されたことを知る。</li> </ul> <p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを知る。</li> </ul> <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。</li> </ul>	

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
	<p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。</li> <li>・戦間期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産・大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。</li> <li>・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。</li> </ul> <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦後に、中国での五・四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動、トルコでのトルコ革命など大衆的基盤をもつ民族運動が発生したことを知る。</li> </ul> <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。</li> <li>・世界恐慌の深刻な影響を受けた日本・ドイツ・イタリアが満州事変や日中戦争、ラインラント進駐、エチオピア侵攻を起こしたことを知る。</li> <li>・世界恐慌の中で、ソヴィエト連邦が五カ年計画の下、工業生産を増大させていったことを知る。</li> </ul> <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。</li> <li>・第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。</li> <li>・米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、対立関係が非ヨーロッパ世界にも拡大し、朝鮮戦争など様々な紛争を引き起こしたことを知る。</li> </ul> <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西欧諸国や日本で、アメリカ合衆国の支援と安定した国際貿易体制に支えられ経済復興を成し遂げたことや、その後西ドイツと日本では高い経済成長が見られたことを知る。</li> </ul> <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960 年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。</li> <li>・アジア・アフリカ諸国が国際社会において第三世界として発言力を増すとともに、平和共存を模索し、植民地支配の終焉に大きな役割を果たしたことを知る。</li> <li>・アジア・アフリカ諸国の経済的自立は容易ではなく、先進諸国との経済格差が拡大し、南北問題として認識されるようになったことを知る。</li> </ul> <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC 諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力にかげりが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>エ グローバル化した世界と日本</p> <p>市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p> <p>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代に入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨体制が瓦解して変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。</li> <li>・1980年代以降、先進工業国が産業構造を転換し、途上国への工場移転を図る一方で、中国やアジアの新興工業地域が欧米諸国や日本から技術や資本を導入して輸出志向の工業化に乗り出し、急成長を遂げたことを知る。</li> </ul> <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会主義計画経済の立ち遅れが明らかになり、東欧やアジアの社会主義国でも経済開放政策が採用され、市場経済の世界化が一層進んだことを知る。</li> <li>・ソヴィエト連邦では経済の行き詰まりを立て直すためペレストロイカを行ったが、経済状況は改善せず、むしろ東欧諸国の改革に拍車がかかり、1980年代末には東欧諸国でも社会主義体制が崩壊し、冷戦が終結するとともに、ソヴィエト連邦が解体されたことを知る。</li> </ul> <p>[地域統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦終結後の国際経済の連携の動きの中で、EUやASEANなど地域統合や地域協力を目指す動きが世界各地で進行していることを知る。</li> </ul> <p>[地球的諸課題をめぐる問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。</li> <li>・地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境や資源・エネルギー問題が地球世界の切実な課題であることを理解する。</li> </ul>

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
(1) 私たちの時代と歴史	<p>原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国王朝の影響、とくに律令制導入の過程、経過で我が国の国家体制が形成されていったことを知る。</li> <li>・仏教の受容により、古代国家の文化の形成がなされたことを知る。</li> <li>・鎌倉幕府の成立、そしてその後の武家政権の展開を土地制度の変遷とともに理解させる。</li> <li>・蒙古襲来の影響や、当時の土地の分割相続制度の限界により、戦乱の時代が到来したことを知る。</li> <li>・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を経た統一政権の成立と、その政治体制について知る。</li> </ul> <p>身近な社会的事象や、地域の事象、現代の課題などを追究し、近現代の歴史的事象と現在との結び付きに気付くことで、自らが歴史の当事者であることを知る。</p>
(2) 近代の日本と世界	<p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p>	<p>[近代の萌芽]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米で資本主義経済を特質とする近代国家が成立し、植民地を求めてアジアに進出したことを知る。</li> <li>・手工業の発展、国学や蘭学などの新しい思想や学問の登場、寺子屋などの教育機関の発達を知るとともにこれらが日本の近代化の基盤になったことを知る。</li> </ul> <p>[開国から幕府の滅亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカからの開国要求を契機に、江戸幕府が開国したことを知る。</li> <li>・日米修好通商条約の締結によって、日本が欧米の貿易市場として開かれたことを知る。また、その内容が不平等な条約であったことを知る。</li> <li>・開国後の政治情勢の中で尊皇攘夷派と公武合体派の対立があったことを知る。</li> </ul> <p>[明治初期の諸改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治新政府が中央集権化を図るとともに、富国強兵、殖産興業政策の下で、廃藩置県、封建的身分制度の廃止、学制や徴兵令、地租改正などの諸改革を実施したことを知る。</li> <li>・欧米文化が導入され、人々の生活が変化していったことを知る。</li> </ul> <p>[明治初期の外交]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清国と日清修好条規、朝鮮とは日朝修好条規が結ば</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p>	<p>れたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロシアや清国などと領土画定が進められていったことを知る。</li> </ul> <p>〔自由民権運動の展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藩閥政府に対する不満と不平士族の反乱が、自由民権運動につながっていったことを知る。</li> <li>・ 士族から豪農層、貧農へと政治的関心が高まったことを知る。</li> </ul> <p>〔立憲体制の成立〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大日本帝国憲法の制定により、欧米諸国以外で初めて立憲体制が整えられたことを知る。</li> <li>・ 刑法や民法など諸法典が整備されたことを知る。</li> </ul> <p>〔条約改正〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治政府が欧米諸国との不平等条約改正を主要な外交課題として取り組んでいたことを知る。</li> </ul> <p>〔日清・日露戦争と国際関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝鮮に対する支配権をめぐり日本と清国との間で対立が起き、日清戦争が始まったことを知る。</li> <li>・ 日清戦争は下関条約によって講和が成立したことを知る。</li> <li>・ 三国干渉によって日本とロシアの対立が激しくなったことや列強の中国分割が進んだことを知る。</li> <li>・ 日英同盟を結んだ日本は、ロシアと朝鮮や満州の権益をめぐり対立し、日露戦争に至った経緯を知る。</li> <li>・ 日露戦争はポーツマス条約によって講和が成立したことを知る。</li> <li>・ 日清・日露戦争を通じて日本は国際的地位を高め、</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学力スタンダード
<p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p>	<p>韓国併合を行うなど東アジアでの勢力を拡大させたことを知る。</p> <p>[政党政治の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次護憲運動と原敬内閣の成立により、本格的な政党内閣が組織されたことを知る。</li> <li>・ 第一次世界大戦を経て労働争議や小作争議などが増加したことを知る。</li> <li>・ 第二次護憲運動を経て二大政党制が始まったことを知る。</li> <li>・ 加藤高明内閣のもとで普通選挙法が成立したことを知る。</li> </ul> <p>[産業革命の進展と資本主義の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の産業革命は、紡績業や製糸業を中心とする軽工業から始まったことを知る。</li> <li>・ 日本の産業革命における重工業の発展は、日清・日露戦争による軍需によることを知る。</li> </ul> <p>[国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業化の進展など、産業構造の変化により農村から都市へ大規模な人口移動が起きたことを知る。</li> <li>・ 日露戦争後から昭和初期にかけて、「大正デモクラシー」という風潮の中で様々な思想が浸透したことを知る。</li> </ul> <p>[第一次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦において、日本が連合国として参戦し、主に中国における利権を得て国際的な立場を強めようとしたことを知る。</li> <li>・ パリ講和会議とワシントン会議及び幣原外交について知る。また、五・四運動、三・一独立運動について知る。</li> <li>・ 大戦景気と社会・産業構造の変化について知る。</li> </ul> <p>[戦間期の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、昭和恐慌など、日本で続けて恐慌が発生し、経済状況が悪化する中で、</li> </ul>



学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>ウ 近代の追究</p> <p>近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p>	<p>国民生活が厳しさを増して社会不安が増大したことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌によって資本主義諸国が経済危機を強めたことを知る。</li> <li>国家主義思想の影響や軍部の台頭によって、五・一五事件や二・二六事件などが起こったことを知る。</li> </ul> <p>〔第二次世界大戦前後の国内外の動向〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日中戦争が長期化する中で、国内では大政翼賛会が発足して全体主義的な国家体制が構築されるなど、東亜新秩序の形式によって局面を打開しようとしたことを知る。</li> <li>近代日本がどのように形成され展開してきたかを、政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっていることを知る。</li> </ul> <p>〔我が国の再出発〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦敗戦後、日本はアメリカ軍を中心とした連合軍の占領下に置かれていたことや、連合軍最高司令官総司令部（GHQ／SCAP）が日本の非軍事化と民主化を目的に間接統治を実施したことを知る。</li> <li>戦後、我が国の民主化を推進するために、連合軍最高司令官総司令部（GHQ／SCAP）が五大改革を行ったことについて、その概要を知る。</li> <li>GHQ草案を基に新たに制定された日本国憲法について、大日本帝国憲法との大きな違いを踏まえて、特に三大原理について知る。</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後の混乱の中で、民主選挙の実施とともに、我が国における政党政治が復活したことや様々な社会運動が行われたことについて知る。</li> <li>〔冷戦の開始と講和〕</li> <li>・ 連合国を中心に国際連合（国連）が結成される一方、アメリカを中心とする西側陣営とソ連を中心とする東側陣営の対立＝「冷たい戦争」（冷戦）が始まり、世界が東西対立（冷戦）に巻き込まれたことを知る。</li> <li>・ 東アジア情勢の変化の中でアメリカの対日占領政策が「日本の非軍事化と民主化」から「西側（資本主義）陣営の一員として早期の経済復興実現」へと変化したことを知る。</li> <li>・ 朝鮮戦争の開始が日本の政治・経済に大きな影響を与えたことを知る。</li> <li>・ サンフランシスコ平和条約が調印され、日本が独立を回復したことや、同条約調印と同じ日に、日米安全保障条約が調印されたことを知る。</li> <li>・ 琉球諸島、小笠原諸島、奄美諸島は、サンフランシスコ平和条約締結後もアメリカの施政権下に置かれたことを知る。</li> <li>〔政治や対外関係の推移〕</li> <li>・ 我が国の戦後の政治状況について、保革対立の下での保守一党優位の政治体制（55年体制）が約40年続いたことを知る。</li> <li>・ 日ソ共同宣言、国際連合への加盟、日韓基本条約、沖縄返還、日中国交回復などを事例として、我が国の独立後の外交政策について知る。</li> <li>・ 冷戦の終結とともに、国際社会から我が国に求められるようになった国際貢献の具体的な内容について知る。</li>    <li>〔日本経済の発展と国民生活の変化〕</li> <li>・ 我が国が戦後の経済復興を成し遂げ、高度経済成長、石油危機を経て世界有数の経済大国となったことについて知る。</li> <li>・ 高度経済成長の過程において、社会構造や家族の形態が変化したことや、公害などの社会問題が発生した</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>ウ 現代からの探究                      現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	<p>ことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二度の石油危機を経て、高度経済成長が終焉し、日本経済が安定成長の時代に入ったことについて知る。</li> <li>・ 現代の日本社会が直面する身近な社会的事象や、地域の事象、現代の課題などについて、様々な資料等を活用して、具体的な事例とともに知る。</li> </ul>

	学習指導要領	向丘高校カスタム標準
(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	<p>世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 地球儀や地図からとらえる現代世界</p> <p>地球儀と世界地図との比較、様々な世界地図の読図などを通して、地理的技能を身に付けさせるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きなどについてとらえさせる。</p>	<p>[位置、方位、時差]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球儀や世界地図を活用して、東京の対蹠点の位置を理解するとともに、緯度・経度の仕組みや地軸の傾きによる季節の変化について理解する。</li> <li>日付変更線やサマータイム制度について理解し、それらを含めた時差の計算ができる。</li> </ul> <p>[地球儀、世界地図]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メルカトル図法やミラー図法、正距方位図法、ホモロサイン図法などの図法の特徴を理解し、用途に応じて適切な図法を使用することができる。</li> </ul> <p>[日本の位置と領域]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然的国境や人為的国境の特徴と具体的な例を挙げることができる。また、我が国が当面する領土をめぐる問題や経済水域の問題について、我が国が正当に主張している立場を理解するとともに、国境のもつ意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを理解する。</li> </ul> <p>[国家間の結び付き]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要な国際組織について、その設立意義や現状と課題を理解する。</li> <li>交通や通信の発達と経済活動のグローバル化により国家間の結び付きが深まっていることについて、主題図や統計を活用して理解する。</li> </ul> <p>[自然環境と人間生活]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>狭まるプレート境界に地震や火山が多いことを、その構造とともに理解する。また、広がる境界は海底に多く</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校カスタム
<p>イ 世界の生活・文化の多様性 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解させるとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察させる。</p> <p>ウ 地球的課題の地理的考察 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。 生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>分布するが、アイスランドなど一部は地上で見られることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>扇状地では、扇頂・扇央・扇端それぞれの特徴を理解するとともに、氾濫原では三日月湖、自然堤防、後背湿地など付随する地形について知る。また、洪積台地の特徴と人間生活のかかわりについて理解する。</li> <li>大気の大循環やモンスーンについて理解するとともに、ケッペンの気候区分の分布と特色、人々の生活について理解する。また、「月平均気温・月降水量」のグラフなどからケッペンの気候区を判別できる。</li> </ul> <p>[宗教、民族と人間生活]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の多くの地域で宗教は日常生活深くに根ざしていることを理解するとともに、民族と言語、宗教との関連を理解する。また、歴史的背景から一部に民族問題や地域紛争が存在することを知る。</li> </ul> <p>[世界の諸地域の生活・文化と多様性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域の生活・文化について、諸資料を活用して、地形、気候をとらえるとともに、歴史的背景を踏まえて宗教、民族、農業、工業、商業、貿易、日本とのつながりなどと関連付けてとらえ、世界の多様性について理解する。また、異文化を理解し尊重することの重要性について理解する。</li> </ul> <p>[地球的課題と解決に向けた取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球的諸課題について、分布、現状、原因及び相互の関連性を、世界的視野から理解する。</li> <li>地球的諸課題は、同じ原因であっても、自然環境や地域性の違いにより、地域によって現れ方が異なることを理解する。</li> <li>地球的課題の解決に向けて、例えば日常生活において取り組むべき課題などを理解する。</li> </ul>

学習指導要領		向丘高校カスタム
<p>(2) 生活圏の諸課題の地理的考察</p>	<p>ア 日常生活と結び付いた地図 身の回りにある様々な地図の収集や地形図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>イ 自然環境と防災 我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。</p> <p>ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査 生活圏の地理的な諸課題を地域調査やその結果の地図化などによってとらえ、その解決に向けた取組などについて探究する活動を通して、日常生活と結び付いた地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>[身の回りにある地図の収集と地形図の読図]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街図、道路地図、観光案内図などの身の回りにある様々な地図を知る。</li> <li>地形図において、縮尺を用いて実際の距離や等高線から任意の地点間の標高差を求めたり、尾根と谷を見分けたりすることができる。土地利用と人間生活のかかわりを理解するとともに、同じ地域の新旧の地形図を比較することで、地域の変容を理解する。</li> </ul> <p>[主題図の作成]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用図や階級区分図、図形表現図やイラストマップを活用することができる。地理情報システム（GIS）の活用例を理解する。</li> </ul> <p>[我が国の自然環境の特色と自然災害]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の地形、気候の特色と過去に発生した主な自然災害について理解するとともに、過去の自然災害への対応について土地利用、集落の位置や家屋の形状などから理解する。</li> </ul> <p>[自然災害と防災]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏の自然環境について理解し、ハザードマップを読み取り、防災意識を高める。</li> </ul> <p>[課題解決のための地域調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域調査の基本的な方法や課題設定から発表までの流れを知る。</li> <li>調査結果を図表や地図にまとめて表現する方法を知る。</li> </ul>

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
(1) 私たちの生きる社会	<p>現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。</p>	<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを知る。 例えば、生命・情報・環境の問題では、様々な対立点があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期とは、社会とかがわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていくなど、自己を確立する基礎を培う重要な時期であることを理解する。また、青年期の意義・特色について、心理的離乳、第二の誕生、境界人、第二反抗期などの用語を使用して、説明できる。</li> </ul>
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	<p>現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。</p> <p>ア 青年期と自己の形成 生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラトリアムとしての青年期の課題として、自分らしい生き方・価値観を見付け、「自分とは何者であるか」を自覚するアイデンティティ（自我同一性）の確立があることを理解する。また、自己実現につながる将来の職業生活について考察し、よりよく生きることの大切さを理解する。</li> <li>・青年期の自己形成を図る上で、社会とのかかわりが重要であることを知るとともに、社会参加が自己実現の可能性を高めることについて、具体的な事例を踏まえて理解する。</li> <li>・我が国の伝統や文化（神道・仏教等）が、私たちの日常生活に様々な影響を与えていることを理解し、現代社会における伝統や文化の継承の重要性について知る。</li> <li>・現代に生きる倫理として、ギリシャ哲学、三大宗教（キリスト教・イスラーム・仏教）、中国の伝統思想（儒教・道教）を人間の人間らしさの学びとして理解する。</li> <li>・近代の思想として、人間尊重の精神、科学的なものの見方、民主的な国家の形成を理解する。</li> <li>・現代思想として、全体主義への批判、西洋中心主義への批判、民主主義と公共の両立が課題であることを理解する。</li> </ul>

学習指導要領		向丘高校学カスタンダード
(1) 現代の民主政治と政治参加と法	<p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</p> <p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <p>個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会契約説の基本的な考え方を理解し、民主政治と国家の在り方について、個人と国家の関係の視点から「法の支配」「立憲主義」について考察する。</li> <li>・日本国憲法が保障する基本的人権には、自由権、社会権、平等権などがあり、さらに自由権の内容として、人身の自由、精神の自由、経済活動の自由があることを理解する。</li> <li>・国民主権が民主政治の根幹であることを知り、現在の我が国の選挙制度の仕組みについて理解する。</li> <li>・我が国における平和主義の考え方について、日本国憲法前文や第9条を踏まえて理解する。</li> <li>・日本国憲法の条文を踏まえて、天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であることや天皇が行う国事行為について理解する。</li> <li>・日本の政治制度の基本的な仕組みについて理解するとともに、内閣が国会に対して連帯して責任を負う議院内閣制を採用していることなどについて説明できる。</li> <li>・18歳選挙権を踏まえ、民主社会における政治参加の重要性について理解し、選挙の仕組みと現代社会の論点について理解する。</li> <li>・新聞やニュースなどを通じて、現実の政治の動きについて関心を深める。</li> <li>・1学年時の『人間と社会』で模擬選挙を体験したこと活かす。</li> </ul> <p>・日本国憲法第13条の「個人の尊重」について正しく理解し、個人の生命・自由及び幸福追求の権利は最大限尊重されなければならないことを知る。</p> <p>・法や社会規範が、私たちの生活のあらゆる領域にかかわっており、私たちの権利を守っていることを理解する。また、憲法は政府の暴走を縛る役割を果たしていることを理解する。</p> <p>・司法制度の基本的な仕組みについて理解し、我が国では、同じ事件について三回まで裁判を受けることができる三審制を採用していることについて説明する。また、司法制度改革の一環として「裁判員制</p>



学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <p>現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。</p>	<p>度」が導入されたことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命がかげがえのないものであることについて理解し、生命尊重の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが重要であることを知る。</li> <li>・社会生活を営む上で、自由・権利と責任・義務とは切り離すことのできない関係にあることを理解する。</li> <li>・人間は尊厳をもつかげがえのない人格として平等であり、他の人々の願いを自分の場合と同様に尊重することが必要であることを知る。</li> <li>・現代の経済社会の変容について、産業構造や人々のライフスタイルの変化に着目して説明できる。</li> <li>・市場が需要と供給をつなぐ取引の場であり、需要と供給の均衡をもたらす「価格の自動調整機能」があることを、アダム・スミスの「見えざる手」という言葉を使用して説明できる。</li> <li>・財政とは、政府による経済活動であり、所得税や消費税といった租税を財源として成り立ち、社会保障費や地方交付税交付金などの歳出がまかなわれていることを理解する。</li> <li>・銀行などの金融機関が資金の融通を行うことで経済が成り立っていることや、日本銀行が発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行の三つの働きをもつことを理解する。</li> <li>・戦後の我が国において実現された高度経済成長について理解し、経済成長が社会全体に与えた影響について説明できる。</li> <li>・日本国憲法に規定された勤労の義務や労働基本権について理解するとともに、非正規雇用の増加などに代表される現実の雇用・労働問題について知る。</li> <li>・病気やけが、加齢などによる生活不安、失業・労働災害・事故などに対して、国の責任として生活の保障する社会保障制度の意義や役割を理解する。中でも医療保険と年金保険については、それぞれ国民</li> </ul>

学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <p>グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p>	<p>皆保険、国民皆年金が整備されていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人や企業が経済活動を行う上で、法令遵守（コンプライアンス）と社会的責任（CSR）を担っていることや、雇用の機会が広がることを理解する。私たち個人が社会生活を営むに当たり、環境保全や社会貢献に配慮した行動をとる消費者が経済社会の主権者であることが重要であることを理解する。</li> <li>現代のグローバル社会が、人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動し、国際的な相互依存関係が深まる中で形成されてきたことを説明できる。</li> <li>人権、国家主権、領土に関する国際法上の規定や、国際平和に向けた各国の協調的な取組が重要であることを知る。特に、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを知る。</li> <li>国際社会における国際法の重要性について知るとともに、国際平和の実現や国際的な人権問題の解決に向けて、国際連合の紛争地域への国連平和維持活動（PKO）や難民に対し国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国境なき医師団等非政府組織などの果たす人道的役割が増大していることを理解する。</li> <li>人種や民族の違いが、宗教や言語などの問題と結び付いて地域紛争を引き起こすことがあることを知る。また、グローバル化の進展とともに、文化や宗教などの違いを越えて、人類が共生に向けた努力を行うこと（寛容の精神）が重要であることを理解する。</li> <li>核兵器をめぐる現状と世界の軍縮への取組について理解するとともに、国際連合をはじめとする国際機関や非政府組織などが軍縮に取り組んでおり「核兵器禁止条約」が非核保有国を中心に採択されたことを知る。</li> <li>現在の我が国の安全保障について日米安全保障条約にもとづく同盟国であり、軍事的には中立な立場にはないが、自衛隊の海外派遣が可能となり、国際社会の平和と安全の維持において自衛隊が果たしている役割が拡大していることについて知る。</li> </ul>

	学習指導要領	向丘高校学カスタンダード
<p>(3) 共に生きる社会を目指して</p>	<p>持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、貧困のない世界をめざして現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的な規模で自由な経済活動が拡大していることや、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることを理解する。</li> <li>・グローバル化の進展とともに、国際的な経済の相互依存関係が深まっていることを理解し、欧州連合などの事例を踏まえて地域的経済統合の動きについて知る。</li> <li>・先進国と発展途上国の経済格差とそれにかかわる課題である南北問題や、工業化に成功した新興工業地域や石油の資源を保有し、その輸出で経済的に豊かになる国もでてきた。しかし、その経済的成功が、国内の貧富の格差がいつそう拡大したり、それまで協力してきた南の国々の間での格差や分裂という南南問題をもたらすことになった。特に後発発展途上国の低所得の国々では絶対的貧困状態に直面し、飢餓に苦しんでいる。国際的な経済問題の解決のためには、国際協調が必要であることを認識し、国際機関や非政府組織などの果たす役割の重要性について理解する。</li> <li>・「持続可能な開発目標（SDG s）が国連総会で採択され、「誰も置き去りにしない」というスローガンのもと、全世界が2030年までに取り組むべき17の目標を示している。全世界での「貧困と格差の拡大」、「社会的差別や排除の広がり」「テロや紛争の頻発」「気候変動による自然災害の深刻化」など、世界が直面している課題を解決していくための目標として策定された。</li> <li>・持続可能な社会の形成に参画することの重要性について理解し、「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」のいずれかに注目して現代社会の諸課題について考察できる。</li> </ul>